# 宇輝人 vol.91

# 本の面白さを子どもたちに――。

1

2

3

1 読み手も思わず熱が入る　2 前のめりになって絵本に食いつく児童　3 やまざくらの話に目を輝かせる児童たち　4 読み聞かせの成果について話し合う

4

**読み聞かせでしか伝わらないこと**

12月7日午前8時、早朝の豊野小図書館で打ち合わせをするのは、おはなしボランティア「やまざくら」の7人。各学年の児童に読み聞かせを行うために、それぞれ本を選び持ち寄った。各教室からは、個性豊かな抑揚のある声が響く。

「やまざくら」は市が合併する以前、先代の代表である宮崎詣子さんが豊野町に本が好きな子どもが増えてほしいと、メンバー3人で始めた団体。

豊野小で年に6回、毎月第2、第4土曜には市立図書館豊野分館で絵本や紙芝居、大型絵本の読み聞かせを行っている。

「今はインターネットで見れる電子書籍や動画などの娯楽がありますが、読み聞かせは、即座に子どもたちの表情が分かりますし、肉声は心に伝わりやすいと思います。そこでしか伝わらない臨場感などを大事にしていますね。」と代表の舛井雅子さんは話す。

メンバーの読み聞かせの巧みさは、目をキラキラと輝かせながら聞く児童の姿が物語る。4年生の桑原颯斗さんは「1年生から毎年聞いていますが、話し方が上手なので聞きやすく、話がよく入ってきます。」と毎回楽しみにする。

読み聞かせが終わると、メンバー同士で「この話はウケが良かった」「子どもたちが真剣に聞いてくれた」と振り返る。それぞれに共通するのは全員が心から本が大好きということ。好きな本も違うため、読み手ごとにカラーが出るので子どもたちを飽きさせない。

**メンバーの願い**

阪田康子さんは「本を読んだり人の話を聞くことで、これから広がる世界でも心が通じ合う人に出会えたり、そこで気付く自分自身を、もっと好きになる小さなきっかけになればいいなと思います。」と子どもたちの未来を想像する。

「最近は休日の図書館に来る子どもたちが少なく、読み聞かせに誰も来ないときもあるので少し寂しい。」と木村弓さん。メンバー共通の願いは読み聞かせの活動がきっかけで本が好きになる子が増え、図書館に来る子どもが増えることだ。

「本が好きだからこそ、その本の魅力を子どもたちにも伝えたい」。その思いを胸に、読み聞かせをするメンバーの表情は、聞いている子どもたちと同じくらい輝いている。

## やまざくらのメンバーが選ぶ　おすすめ絵本

「とっときのとっかえっこ」

木村さん

隣同士のおじいちゃんと女の子の話。年齢や性別などを超えた心の通い合いが描かれ、優しい気持ちになれる1冊です。

「ぼんさらや」

熊本の民話ですが、内容はシンデレラの日本版みたいな話。和歌の返しが面白く、思わず吹き出してしまいます。

舛井さん

「ぐりとぐらのおきゃくさま」(作：なかがわ りえこ　絵：やまわき ゆりこ　出版：福音館書店)
「サンタのおばさん」(作：東野 圭吾　絵：杉田比呂美　出版：文藝春秋)
「クリスマス・イブ」(作：マーガレット・ワイズ・ブラウン　絵：ペニ・モントレソール　訳：やがわ すみこ　出版：ほるぷ出版)
「パディントンのクリスマス」(作：マイケル・ボンド　絵：ペギー・フォートナム　訳：松岡享子　出版：福音館書店)

「とっときのとっかえっこ」
作：サリー・ウィットマン
絵：カレン・ガンダーシーマー
訳：谷川 俊太郎
出版：童話館出版

「たからもの みつけた！」
作：くすのき しげのり
絵：重森 千佳
出版：あかつき教育図書

(右奥から時計回り)村山奈美子さん、益田佐智子さん、桑田かおりさん、舛井雅子さん、岡早百合さん、阪田康子さん、木村弓さん

「森は生きている」
作曲：林 光
企画・原案：マルシャーク
絵：エリョーミナ
監修：斎藤 公子
出版：K フリーダム

「1つぶのおこめ」
作・絵：デミ
訳：さくま ゆみこ
出版：光村教育図書

「くまもとの昔話 ぼんさらや」
再話：志岐 有子
絵：福吉 里加子
出版：熊日出版

「としょかんライオン」
作：ミシェル・ヌードセン
絵：ケビン・ホークス
訳：福本 友美子
出版：岩崎書店

### やまざくら　Yamazakura

豊野町で読み聞かせの活動をするボランティア団体。主に豊野小と市立図書館豊野分館で絵本や紙芝居、大型絵本の読み聞かせを行う。

**やまざくらの読み聞かせ**

**場所**　市立図書館豊野分館
**日時**　毎月第2、第4土曜日
10時30分～11時